

平成 29 年度「第 1 回ケアラーサポーター育成研修」開催報告 地域に学び、地域でささえる～ケアラーを孤立させないために～

【日時】平成 29 年 5 月 10 日(水)16:10～19:10

【場所】長崎大学文教キャンパス 文教スカイホール

【講師】富岡 郁雄 氏

(NPO 法人日本ソーシャルコーチ協会 代表理事)

平成 29 年 5 月 10 日(水)、長崎大学文教キャンパス文教スカイホールにて、「第 1 回ケアラーサポーター育成研修」を開催いたしました。当日は、学内外から 149 名の参加がありました。

講義及び演習「傾聴から学ぶ～3つのこと～」

富岡先生は、会話は言葉のキャッチボールであり、傾聴は感情のキャッチボールであると述べ、「こちらが訊きたいことを聞くのではなく、相手が話したいことを聴くこと」が傾聴の基本であると述べられました。「傾聴から学ぶ 3 つのこと」について、「共感～気持ちに寄り添う」「受容～ありのままを受け入れる」「信頼～無限の可能性を信じる」をあげ、「一番大切なものは目に見えない、心で感じるものである」ことについても傾聴から学んでほしいと話されました。また、「感謝～小さな幸せを感じる心」について、「恩送りは人のためではなく、自分のために始める」と述べ、ボランティアについても話してくださいました。講義の中では、2 人組になり実践を交えながら、身をもって体験し感じて学びを深めました。最後に、今日学んだ 3 つのことを使って「あなたが大切だ」ということを周りの人に伝えていってほしいと締めくくりました。



写真 1 富岡 郁雄氏



写真 2 講義の様子

最後に医歯薬学総合研究科の井口茂教授より挨拶がありました。コミュニケーションの大切さ、言葉の重要性を再確認した。今回参加されたみなさまには、今回の学びを日々の生活やボランティア活動に活かしていただき、学生においては 4 年間の大学生活や社会人となってからのコミュニケーション等人間関係の構築に役立てていただきたいと述べられました。

平成29年度 第1回ケアラーサポーター育成研修
長崎大学
参加費無料
※事前申し込みが必要
託児あり
平成29年
5月10日(水)
16:10～19:10
(開場/15:50)
長崎大学文教スカイホール
(グローバル教育・学生支援棟4階)
傾聴から学ぶ～3つのこと～
講師 富岡 郁雄氏
(NPO法人日本ソーシャルコーチ協会 代表理事)
一級(地域)の方、長崎大学学生・教職員
お申込みは要員までください。
富岡先生は、会話は言葉のキャッチボールであり、傾聴は感情のキャッチボールであると述べ、「こちらが訊きたいことを聞くのではなく、相手が話したいことを聴くこと」が傾聴の基本であると述べられました。「傾聴から学ぶ 3 つのこと」について、「共感～気持ちに寄り添う」「受容～ありのままを受け入れる」「信頼～無限の可能性を信じる」をあげ、「一番大切なものは目に見えない、心で感じるものである」ことについても傾聴から学んでほしいと話されました。また、「感謝～小さな幸せを感じる心」について、「恩送りは人のためではなく、自分のために始める」と述べ、ボランティアについても話してくださいました。講義の中では、2 人組になり実践を交えながら、身をもって体験し感じて学びを深めました。最後に、今日学んだ 3 つのことを使って「あなたが大切だ」ということを周りの人に伝えていってほしいと締めくくりました。
【主催・企画・協力】
国立長崎大学 長崎大学 ダイバーシティ推進センター
TEL: 095-819-2179 (内線: 2179) FAX: 095-819-2159
MAIL: oneway_working@ml.nagasaki-u.ac.jp http://www.cdb.nagasaki-u.ac.jp



写真 3 講義の様子



写真 4 井口 茂教授

第 1 回ケアラーサポーター育成研修には、多くのみなさまにご参加いただきました。センタースタッフ一同、心よりお礼申し上げます。アンケートでは「学びの多い講義でした。今後活かしていきたい」「今まで考えたことがないことを考え、気付くことができ、感動した」「自分を見つめ直すよい機会になった」など、感動や感謝が多く寄せられました。また、「人間関係を形成し、良いものにするための方法や道しるべを学んだ」「人とのかかわり方や自分の価値観、考え方が変わった」など、自己理解や気づきを深められたことが窺えるコメントもありました。アンケートへご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

長崎大学ダイバーシティ推進センターは、今後も引き続きケアラーサポーター育成研修を開催します。今後ますます介護の課題を抱える人が増加することが確実視されているなか、介護者が孤立することなく介護者も要介護者も共に社会参加ができるよう、地域のみなさまとも取り組んでまいります。